

熊本子ども未来プロジェクト ～支援金を子ども達の未来へ還元～

『プロジェクトの方向性』

- 1, 復興支援で開発した Fun&Fit 運動プログラムを基盤に、保育者との実践交流を通じて内容をブラッシュアップし、より現場に即した形へ改善していく。
- 2, プログラムのノウハウが、災害地での子ども達の活動停止時に活かされている。その実績をもとに必要とする人たちへ役に立てるような啓発活動を実施する。
- 3, 未来の教職員(学生)への実地研修を提供する。
- 4, 子ども達の考案プロジェクトをサポート

開発プログラム啓発事業、子ども考案プロジェクト支援 報告(令和 7 年度)

研究をもとに開発した「Fun&Fit オリジナル運動プログラム-幼児期に身に付けてほしい 36 の基本動作カード-」を活用し、体験型研修を継続的に実施した。今年度は、生活面や運動面での効果をより明確に検証し、各園で狙いのある運動指導が再現性をもって実施できるかを重点課題として取り組んだ。

動作カードを活用している現場の声を収集し、定期的に職員が実施しているプログラムに対してフィードバックやスキルアップ研修を行った。その結果、子ども達の体力面や生活面の向上が確認されつつあり、年度末にはヒアリング調査を実施し、研修プログラム及び動作カードの改良を進めた。

さらに今年度は、国内外において新たな展開を行った。能登半島の幼児教育現場において、震災後の子ども達の心身の回復と基礎体力向上を目的に運動プログラムを実践し、現地保育者との実践交流を通じてプログラムの有効性を確認した。また、フィリピンで発生した巨大地震と大型台風によるダブル被害時には、現地での物資支援と併せて運動プログラムを提供し、被災した子ども達が身体を動かすことで心身の安定を取り戻す支援を行った。これにより、災害時における運動プログラムの有効性と国際的な適用可能性が示された。

昨年同様「益城町」と共に子どもの未来を支える取り組みを継続し、誰でもどこでも「心身ともに逞しく、災害時や社会に通用するような生きる力」を養うことを目標に活動を展開した。さらに、保育現場にとどまらず、一般家庭や地域活動でも動作カードを活用できるように工夫を加え、全国へ幅広く提供できる体制づくりを進めている。

1,『幼児体育教室』+『プログラム啓発活動』

【時間】 園の正規時間内

【対象】 全園児 延べ850名

【費用】 NIPPON IT チャリティー駅伝実行委員会（東京）
一般社団法人Fun&Fit 予算、益城町立各保育予算

【回数】 各園毎月1回ずつ実施

【内容】

・「Fun&Fit オリジナル運動プログラム」および「幼児期に身に付けてほしい36の基本動作カード(サーキットカード)」を活用し、益城町内の保育園で毎月1回の体験型研修を継続的に実施。

・先生方へのアンケート調査を通じて「使用上の悩み」を収集し、現場の課題解決につながるプログラム改善を行った。

・実践交流を通じて、保育者が主体的にプログラムを再現できる環境づくりを推進。

【実施園】令和7年4月から令和8年3月末 各園12回 計72h

・益城町立益城第1保育所 2h×12日

4月7日、5月2日、6月2日、7月2日、8月4日、9月1日、10月1日、11月5日、
12月1日

1月5日予定、2月2日予定、3月2日予定

・益城町立益城第二保育所 2h×12日

4月14日、5月19日、6月9日、7月7日、8月6日、9月8日、10月6日、11月10日、
12月8日

1月19日予定、2月4日予定、3月9日予定

・益城町立益城第三保育所 2h×12日

4月21日、5月26日、6月23日、7月23日、8月18日、9月22日、10月20日、
11月17日、12月15日

1月26日予定、2月9日予定、3月16日予定

・ひびきのそら保育園(旧益城町立益城第四保育所) 2h×12日

4月16日、5月14日、6月18日、7月16日、8月27日、9月24日、10月15日、
11月12日、12月3日

1月14日予定、2月18日予定、3月18日予定

・益城町立益城第五保育所 2h×12日

4月28日、5月28日、6月23日、7月28日、8月25日、9月29日、10月27日、
11月19日

12月22日予定、1月28日予定、2月16日予定、3月23日予定

・益城町立益城幼稚園 2h×12日

4月28日、5月16日、6月20日、7月4日、9月19日、10月17日、10月24日、
11月14日

12月19日予定、1月16日予定、2月20日予定、3月13日予定

【成果】

・再現性の向上

実践交流を通じて、保育者が主体的にプログラムを再現できる環境が整い、園ごとに安定した運動指導が可能になった。

・課題解決型の改善

アンケート調査で収集した「使用上の悩み」を反映し、動作カードや研修内容を改良。現場の課題に即したプログラムへと進化した。

・子どもの体力・生活面の向上

継続的な研修により、子ども達の基礎体力や生活習慣に改善が見られ、保護者からも「家庭での運動習慣につながった」との声が寄せられた。

・地域連携の深化

保育園から小学校への運動能力データの申し送りが進み、就学後の継続的な支援体制づくりに寄与した。

・防災教育体験活動実施

火おこし体験を通じて、子ども達は「自分の力で生活を支える知恵と技術」を学ぶ機会を得た。単なる遊びではなく、災害時に電気やガスが使えない状況を想定し、火を起こすための工夫や安全な取り扱いを体験することで、生活力や危機対応力を育むことができた。

また、火おこしを通じて「仲間と協力することの大切さ」や「失敗から学ぶ姿勢」を体感し、子ども達の主体性や粘り強さが育まれた。保育者にとっても、防災教育を日常の遊びや活動に組み込む意義を再確認する機会となり、今後の教育現場での活用につながった。

【課題】

・職員間の理解度の差

学年や担当の入れ替わりにより、プログラムの重要性や指導意図の共通理解に差が生じる。園全体での研修機会が必要。

・再現性の継続的検証

一部の園では、研修参加者以外の職員が十分にプログラムを活用できていない。研修後のフォローアップ体制を強化する必要がある。

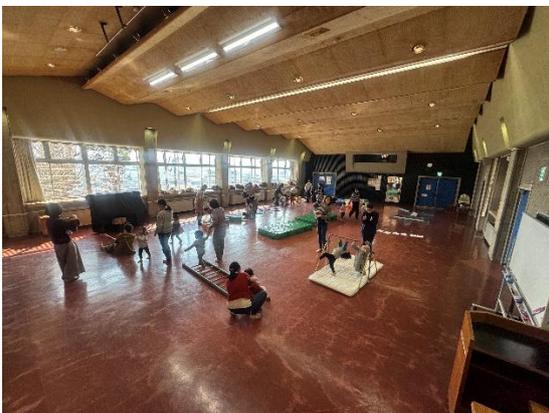
・保護者・地域への広がり

保護者会や地域活動での啓発は一定の成果を上げたが、家庭や地域での継続的な活用に向けた仕組みづくりが課題。

・プログラムの汎用性拡大

保育園以外の場(一般家庭、地域クラブなど)での活用方法をさらに具体化し、全国展開に向けたモデル化が求められる。

【活動の様子】



開発運動プログラムを年齢毎で開催



防災・アウトドア体験活動を導入

2、『体験型研修』+『プログラム啓発活動』

【対象】 益城町保育研修会 17 園、合志市学童クラブ研修 30 団体

【費用】 各研修依頼予算

【回数】 研修・アンケート調査 1セットで実践

【内容】

- ・「Fun&Fit オリジナル運動プログラム」および「幼児期に身に付けてほしい 36 の基本動作カード(サーキットカード)」を活用し、益城町内保育園での体験型研修を継続的に実施。
- ・先生方へのアンケート調査を通じて「使用上の悩み」を収集し、現場の課題解決につながる改善を行った。
- ・保育者との実践交流を重ね、誰でも再現可能な運動指導環境を整備。
- ・今年度は新たに合志市学童クラブ 30 団体を対象に研修を拡大。保育者だけでなく、保育参観を通じて保護者も参加し、講演会や親子サーキット遊びの実践活動を行った。

【実施日】 7月19日(2H)、9月30日(2H)

【成果】

・再現性の向上

保育者が主体的にプログラムを再現でき、園内での共有や継続的な活用が進んだ。

・子どもの体力・生活面の改善

継続的な研修により、基礎体力や生活習慣の向上が確認され、保護者からも家庭での運動習慣につながったとの声が寄せられた。

・保護者参画の拡大

保育参観や講演会を通じて、保護者がプログラムの意義を理解し、家庭での実践につながった。親子サーキット遊びでは「親子で楽しみながら防災教育や基礎体力づくりを体験できた」と高評価を得た。

・地域連携の深化

合志市学童クラブへの展開により、保育園だけでなく学童期の子ども達にもプログラムを届けることができ、地域全体での運動習慣づくりに広がりが見られた。

【課題】

・職員間の理解度の差

園やクラブ研修参加者の理解度に差があり、全職員への共通理解を深める全体研修が必要。

・再現性の継続的検証

一部の現場では研修後の実践が十分に定着していないため、フォローアップ体制の強化が求められる。

・保護者への継続的関与

保育参観や講演会は好評であったが、家庭での継続的な活用に向けた仕組みづくりが課題。

・学童クラブでの応用

保育園と異なり学童期の子ども達には発達段階に応じた工夫が必要であり、プログラムの柔軟な改良が求められる。

【活動の様子】



保育者や学童クラブでの研修



保育参観での親子交流イベント

3、『Fun&Fit 益城クラブ(総合運動部)フードロスプロジェクト-』

【対象】 6年生児童 20名

【費用】 NIPPON IT チャリティー駅伝実行委員会 (東京)

一般社団法人 Fun&Fit 予算

【回数】 毎月1回ずつ実施(実施合計8回 令和5年6月から現在に至る)

【内容】 6年生の発案をもとに実施するリアル体験活動【ファンタブル】結成

■ネーミングの意味

Fun&Fit × vegetable = Funtable(ファンタブル)

■目的

- ① 農作物フードロス削減
- ② 6年生卒業イベント資金調達「イベントテーマ:地域運動会を実施したい」
- ③ 次年度の野菜の種や苗、畑に必要な道具購入

■経緯

年に数回行っている農業体験…子ども達のクッキングやお持ち帰りだけじゃ野菜が余って腐らせていた。→これまで子ども食堂へ提供していたが、こどもたちから農園で余ってしまった野菜をどうにかしたいとの声が上がリ、フードロスプロジェクトが始動

■これまでのアクション

野菜販売、オンライン伝票、値段決め、値札等買い出し、値札メッセージ、袋詰め、ディスプレイ、野菜の現状確認、お店へプレゼン ※お金の計算は子ども達、管理は当団体の責任者緒方(お金可視化)

■こども会議の様子

子ども達のリアルな意見から考える

↓

『人はどうして安い料金を求めるのか?でも自分たちが考えた料金は高いと言われる。どちらを優先したら良いか困る』

↓

考えるだけではなく、いろんな人の意見を聞きに行く

- ・お金より大切なことは信頼信用
- ・信頼や想いが伝わると価値が上がる 価値のある料金となる
- ・物の料金は背景を伝えると提示された料金で納得してくれる可能性が高い
- ・自分たちの想いを伝えてその料金で納得してもらう

このようにたくさん学んで考えて体得しているプロジェクト!!

【実施】

内容	実行日
話し合い・作成(看板など)	5/9 5/16 5/30 6/13
畑の状態調査	4/25 9/12 11/14
種、苗植え	6/6
水やり、草取り	4/25 9/12 10/17
収穫	5/16 6/6 7/4 10/17 12/5
販売	5/16 6/6 7/4 12/5 1/19 予定
最終ゴール(イベント実施日)	3/21

【成果】

販売体制の安定化

昨年メンバーが課題や改善策を積み重ねてくれたことで、今年度は販売の流れがスムーズになり、安定した活動が可能となった。

子どもたちの成長

- 畑に足を運び、野菜の成長過程を知ることで自然への理解が深まった。
- 販売活動を通じて、声の掛け方や接客の仕方を学び、人との関わり方を体験。
- 仲間の意見を聞き、次の対策を考える力が育まれた。
- 学校では得られない「マネー教育」を経験し、金銭管理や価値の理解を実体験。
- 作った野菜を実食し、味を言葉に変換して伝える力を養った。
- 適材適所で個性を發揮し、役割分担の重要性を学んだ。
- 農家や販売者、保護者への感謝の気持ちが芽生え、社会とのつながりを実感。

【課題】

収穫時期と活動日のずれ

葉物野菜などが虫に食べられてしまうなど、収穫のタイミングが合わない問題が発生。

夏野菜の大量収穫

一度に熟すため消費や販売が追いつかず、余剰が出てしまう。

販売競合の発生

他の農家と収穫時期が重なることで、売れ残り野菜が出るケースがある。

【活動の様子】



【今後の展開】

収穫計画の精緻化

各野菜の収穫時期や収穫目途を事前に調べ、活動日との調整を行う。

販売方法の柔軟化

オンライン販売の更新をこまめに行い、需要に合わせた販売体制を整える。

提携・協力の拡大

地域の農家や飲食店、協力団体と連携し、野菜の活用方法を広げる。加工品や地域イベントでの活用も視野に入れる。

教育的価値の深化

子ども達の話し合いを活動に反映し、主体的に改善策を考え実行するプロセスを重視する。これにより「課題解決力」「協働力」「社会参画意識」を育む。

次年度の展開

開発プログラム啓発事業、子ども考案プロジェクト支援、防災教育体験活動

2026年4月、熊本地震から10年という大きな節目を迎えます。あの日から積み重ねてきた歩みは、子どもたちの笑顔や地域の絆として確かに形になっています。しかし、世界や全国各地で災害が相次ぐ今、私たちは改めて「いつ、どこで、何が起こるかわからない」という現実に向き合わなければなりません。

だからこそ、物資の備えだけではなく、幼児期から「知識」と「心構え」を育むことが必要です。当団体は遊びを通じて楽しく学べる **防災教育体験活動** を展開し、子どもたちが「生き抜く力」を自然に身につけられるよう取り組みます。火おこしや簡易調理、親子でのサーキット遊びなど、体験を通じて学ぶ活動は、災害時だけでなく日常生活にも活かせる知恵となります。さらに、これまでの活動を地域へ広くPR・周知することで、保育者・保護者・地域住民が一丸となり、防災について学び合う機会を提供します。子どもたちが未来を担う力を育み、地域全体が「共に備える」姿勢を持つことこそ、真の復興であり次世代への贈り物です。支援して下さる皆さまのおかげで、ここまで歩んでくることができました。次年度は「開発プログラム啓発事業」「子ども考案プロジェクト支援」「防災教育体験活動」を柱に、子どもたちの未来を守り、地域の希望を育む活動をさらに広げてまいります。

《内容》

1、『幼児体育教室』+『プログラム啓発活動』

【時間】 園の正規時間内

【対象】 年長・年中・年少

【費用】 一般社団法人 Fun&Fit 予算、益城各保育予算

【回数】 各園毎月1回ずつ実施

【内容】

研修受講後の先生方へのサーキットカードに関する「使用上の悩み」を集約する為にアンケート調査をする。昨年度同様に研修結果と悩みアンケート調査の結果をもとに、悩みの解決につなげる運動プログラムを在園児に対して指導をし、現場で研修を行う。その後、実践に対するアンケート調査と測定を行い、保育士・幼稚園教諭だけで狙いのある運動指導ができる環境を提示して行く。

【実施日】 令和7年4月から令和8年3月末 各園12回 計72h

2、『Fun&Fit 益城クラブ(総合運動部)フードロスプロジェクト』

【対象】 6年生児童 ※現5年生へ継承する

【費用】 一般社団法人 Fun&Fit 予算

【回数】 毎月1回ずつ実施

【内容】 6年生の発案をもとに実施するリアル体験活動【ファンタブル】
オンライン有機野菜販売、キッズマルシェ、地域運動会計画中

3、『防災教育体験活動』

【対象】 県内の年少～大人

【費用】 一般社団法人 Fun&Fit 予算

【回数】 毎月1回ずつ実施

【内容】

次年度は、幼児期から「遊びを通して学ぶ防災教育」をテーマに、以下の体験活動を実施する。

火おこし体験

マッチや火打石などを使い、災害時に電気やガスが使えない状況を想定して火を起こす体験を行う。火を扱う際の安全性を学びながら「自分の力で生活を支える知恵」を身につける。

シェルター作り

身近な道具や素材を活用し、簡易的な避難シェルターを作る活動を通じて「安心できる居場所を自分たちで作る力」を育む。仲間と協力することで協働性も養われる。

防災食器づくり

ペットボトルや新聞紙など身近な素材を使って食器を作ることで、災害時に必要な工夫や代替手段を学ぶ。資源を大切にする意識も育まれる。

ライフライン停止を想定した活動

水・電気・ガスが止まった状況を想定し、限られた資源で生活する体験を行う。子どもたちは「不便さを知る」だけでなく「どう工夫すれば乗り越えられるか」を考える力を養う。

防災クッキング

保存食や限られた材料を使って調理する活動を通じて、災害時でも栄養を確保する工夫を学ぶ。親子で参加することで「家庭での備え」への意識も高まる。

【期待される効果】

- 子どもたちが「遊びながら学ぶ」ことで、防災を身近に感じられる。
- 災害時に必要な知識や心構えを幼児期から育むことができる。
- 保護者や地域住民も参加することで、家庭や地域全体に防災意識が広がる。
- 単なる備えではなく「生き抜く力」を育む教育として、地域の復興と未来につながる。

【お礼の言葉】

平成 29 年から今日まで、長きにわたり温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。皆さまのご協力があったからこそ、子ども達は安心して学び、遊び、挑戦し、そして大きく成長することができました。

火おこしや運動プログラム、防災教育体験活動、子ども考案プロジェクトなどを通じて、子ども達は「生きる力」を育み、仲間と協力する喜びや人への感謝の気持ちを知ることができました。これらの経験は、未来を生き抜く力となり、地域を支える大きな希望へとつながっています。そして 2026 年 4 月、熊本地震から 10 年という節目を迎えます。震災直後から続けていただいた支援は、子ども達の成長と地域の復興を支える大きな力となりました。皆さまの思いは、子ども達の笑顔や挑戦の中に確かに息づいており、未来へと受け継がれています。これからも「子ども達の未来を守り育てる」という使命を胸に、地域と共に歩み続けてまいります。改めて、これまでのご支援に深く感謝申し上げますとともに、次の 10 年も共に子ども達の未来を育む仲間として歩んでいただければ幸いです。

一般社団法人 Fun&Fit 代表理事 緒方保美

〒861-8041 熊本県熊本市東区戸島 6 丁目 16-63

TEL:090-1516-6802 FAX:096-389-9061

MAIL:funfit.kumamoto@gmail.com

HP <http://funfit-kumamoto.com>

Instagram <https://www.instagram.com/funfitkumamoto>

公式 LINE <https://lin.ee/99zMHC5>